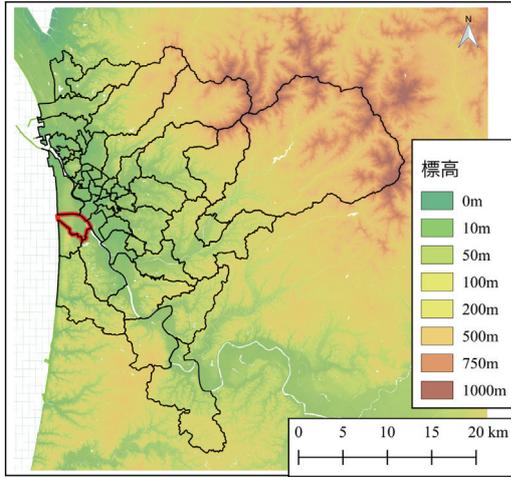


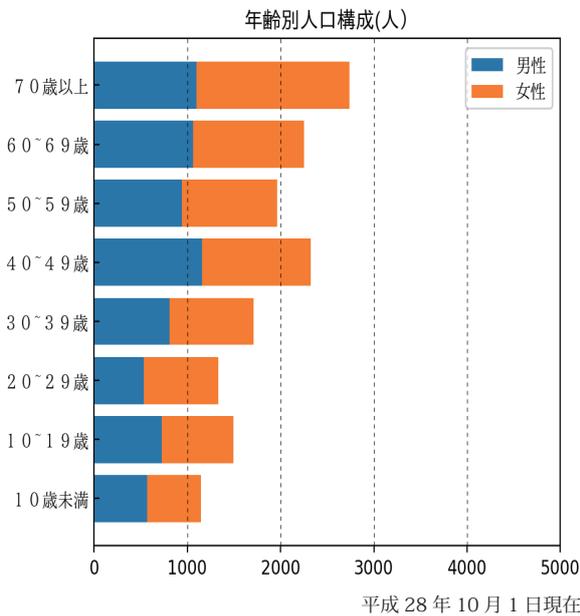
36：日新小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	15,197 人
世帯数	6,312 世帯
65 歳以上人口	3,964 人
10 歳未満人口	1,143 人



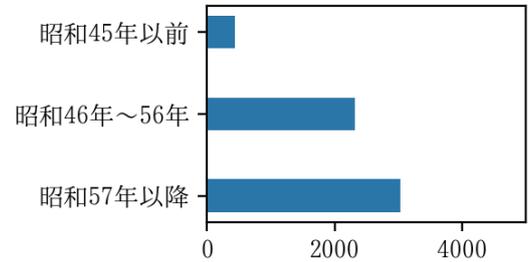
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	5807
非木造建物	470

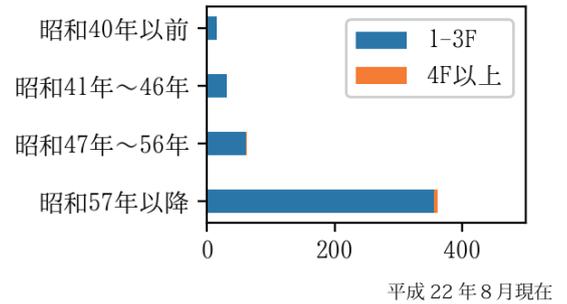
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	3,040
昭和46年~56年	2,327
昭和45年以前	440



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	356	6
昭和47年~56年	61	1
昭和41年~46年	31	0
昭和40年以前	15	0



自然的・社会的基本指標

雄物川河口部右岸側(南側)に位置している。海岸沿いの地域は砂丘となっており、新屋海浜公園などとして利用されている。また、東部の JR 羽越線東側には商工業区域および住宅地などとして利用されている。特に酒田街道(旧国道7号線)の周辺で建物の密集度が高い。1983 年日本海中部地震では、新屋元町の旧国道沿い付近などで液状化が発生し、建物被害も発生した。人口構成として 30 歳代~50 歳代の占める割合が比較的高いほか、公立大学等が立地しているためか 10 歳代の構成比率も高い。65 歳以上の高齢者層は、全体の 26% である。昭和 57 年以降の建物は全体の 54% である。

3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 洪水

指定河川	雄物川		
浸水面積 (%)	27.9		
最大浸水深 (m)	ランク 4		

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	3	日吉町、比内町 他
土石流危険渓流	0	該当箇所なし
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	0	該当箇所なし

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	0	該当箇所なし
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度	震度 6 弱	
(計測震度)	(5.80)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	13	
液状化危険度ランク	5	
建物全壊率 (%)	3.9	

* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が運動した場合)

浸水面積 (%)	2.6	
最大浸水深 (m)	13.6	

4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	7
婦人幼児支援	3
障がい者等支援	2

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	3
こども園	1
幼稚園	1

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	4

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	1
高等学校	2
大学・短大・高専	1
養護学校等	1

5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	158
防火水槽 (箇所)	28
消防車台数 (台)	11
消防ポンプ数 (台)	2
消防団員数 (人)	25

■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	8
土砂災害	8
地震	8
津波	6
福祉避難所	3
津波避難ビル	3
津波警報サイレン	1

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田消防署
管轄警察署	秋田中央警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	5
最寄りの救急告示病院	市立秋田総合病院
自主防災組織数	8

自然災害時の危険要素

雄物川の氾濫により、主に JR 羽越線の東側の地区を中心に 3m 未満の浸水域が広がると想定されている。

土砂災害については、がけ崩れの恐れがある箇所 3 カ所が指摘されているほかは、危険性は少ない。

地震動としては、全体に同様の揺れやすさとなっているが、それに対し JR 新屋駅から東側ではやや揺れやすくなる傾向がある。液状化の危険性は高い。津波により新屋海浜公園付近の一部が浸水する可能性が想定されている。

防災上の課題と対策

日新小学校区では、1983 年日本海中部地震の際には市街地中央部で地盤の液状化が発生している。また、雄物川河口でも津波による海面の上昇が見られたが、浸水による被害は発生しなかった。今後日本海を震源とする大地震が発生した場合には、液状化並びに津波による被害が発生するおそれがあり、注意が必要である。

木造建物のほぼ半数が旧耐震建築物であり、地震時にはかなりの建物被害と人的被害の発生が予測される。災害時要支援者関連施設も多い。

建物密集地では倒壊物等による道路閉塞などが懸念されることから、避難経路等の選定には注意が必要である。人口の年齢構成は比較的偏りのない構成となっているものの、高齢者比率が急速に高まっていることから、住民相互の助け合いが一層期待されることである。

小学校区内には多くの避難施設（指定避難所、緊急時一時避難場所、津波避難ビル）が指定されているが、災害の種類にその利用の可否があるとともに、同一の施設でも災害種別により利用できる範囲が異なっている。正しい防災知識並びに防災関連情報を周知し、住民による日常の防災訓練等の防災活動などにおいて十分に確認しておくなどのこ

とが望まれる。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
西部市民サービスセンター (3階各室と廊下およびホール)	x	x	x	x	○	x	590人
西部市民サービスセンター (多目的ホール)	○	○	○	○	x	x	183人
秋田西中学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	10,260人
秋田西中学校(体育館)	○	○	○	○	x	x	603人
秋田西中学校(校舎3階教室と廊下、塔屋1階部分)	x	x	x	x	○	x	1,810人
日新小学校グラウンド	x	○	○	○	○	x	津波 6,710人 津波以外 3,355人
日新小学校(体育館)	○	○	○	○	x	x	289人
秋田公立美術大学グラウンド	x	○	○	○	x	x	3,450人
秋田公立美術大学 附属高等学院(体育館)	○	○	○	○	x	x	284人
秋田公立美術大学	○	○	○	○	x	x	399人
秋田公立美術大学 (講義棟2階の各室と通路)	x	x	x	x	○	x	850人
秋田県立栗田支援学校 グラウンド	x	x	x	x	○	x	1,540人
秋田県立新屋高等学校 グラウンド (野球場・陸上競技場)	x	x	x	x	○	x	21,538人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
軽費老人ホーム(A型) だいせん	新屋大川町 17-3	018-828-1851
小規模多機能ホーム 日吉坂	新屋比内町 7番4号	018-893-3800
秋田県立栗田支援学校	新屋栗田町 10-10	018-828-1162

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
秋田公立美術大学	新屋大川町 12番3号	・講義棟2階の各室と通路	850人
秋田西中学校	新屋大川町 19番75号	・校舎3階教室と廊下、塔屋1階部分	1,810人
西部市民サービスセンター	新屋扇町 13番34号	・庁舎3階各室 ・庁舎3階ホール ・庁舎3階廊下	590人

津波警報サイレン

施設	所在地
雄物川左岸	新屋栗田町地内

